

ビル・アドコックス
オクラホマ州 ベタニー

2月5日(火)

来て，そして，見なさい

聖書朗読 ヨハネ 1：43～51

また，互いに勧め合って，愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。
ヘブル 10：24

ナタナエルは，自分たちがメシアとお呼びしている方を，自分の方から行って見ることができました。私たちが教会に友人を招くのは，彼らに神様の愛，救い，そして神様を信じる者が行動するのを見せたいからではないでしょうか？ 友人が自分で来て，何かを見て欲しいと思います。彼らがその一部になりたいと思うようなものを見て欲しいですし，神様の愛や神様を信じる者たちが分け合う愛，神様の救いを経験して欲しいと思います。

ヘブル人への手紙の作者は，『互いに勧め合って，愛と善行を促す』ために，私たちは定期的集まるべきだと書いています（ヘブル10：24）。使徒パウロはコリントの教会に，彼らが一か所に集まり，各自の賜物を用いて互いに啓発し合うなら，信者でない者や初心の者が入って来たとき，『神が確かにあなたがたの中におられると言って，ひれ伏して神を拝むでしょう。』（Iコリント14：25）と書き送っています。

私たちは家族の一部であり，体の一部です。それぞれの賜物と霊的な成熟の程度をもっている私たち一人ひとりが，体の重要な部分であり，不可欠な要素なのです。『もし一つの部分が苦しめば，すべての部分がともに苦しみ，もし一つの部分が尊ばれれば，すべての部分がともに喜ぶのです。』（Iコリント 12：26）。私たち一人ひとりの成長と行動が，体を動かしています。だからこそ，私たちは『神が確かにあなたがたの中におられる』と言われるようなものを，友人に来て見て，経験して欲しいと思うのです。

讃美歌 386

祈り 親愛なる主よ。この世において，イエス様に倣うように努力しているとき，私たちの主イエス様が歩まれた人生を見て，理解できるように私たちの目を開いてください。イエス様が私たちの中に見えますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ウィリアム・T・マッコーハム
オレゴン州 フィロマス

2月6日(水)

絶望している人にこそ真の希望がある

聖書朗読 ヨハネ 4：13～26

神は霊ですから，神を礼拝する者は，霊とまことによって礼拝しなければなりません。
ヨハネ 4：24

おそらく大半の人は人生のある時期，神様を求めたことがあると思います。でも，神様も，ある人たちを求めておられることを考えたことがありますか？

イエス様は，ある日，サマリアを通る旅をしておられた時，スカルというサマリアの町に来られました。そこにはヤコブの井戸があり，イエス様は井戸のかたわらに腰をおろして休まれました。時は6時ごろで，弟子たちは食物を買いに町へ出かけていました。町から一人のサマリアの女の人が井戸の水をくみに来ました。そして，イエス様はその女の人に「わたしに水を飲ませてください」と言われました。会話が続き，礼拝の話になりました。

彼女は，イエス様は預言者だと思ったので，イエス様に正しい礼拝の場所はエルサレムなのか，それともこのゲリジム山なのかを尋ねました。イエス様はこのようにお答えになりました。『わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは，この山でもなく，エルサレムでもない，そういう時が来ます。』そして，イエス様はとても重要なことをおっしゃいました。

『しかし，真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。』（ヨハネ4：23）とイエス様は言われました。神様がある人たちを探し求めて，地球をまわられていると想像することができますか？ どんな人たちを求めていらっしゃるのでしょうか？ それは，霊とまことによって神様を礼拝する人たちです。

讃美歌 179

祈り 天国と地上の主よ。あなたが私たちに望まれている礼拝について，あなたはお話してくださいます。私たちは永遠にそれを守り，あなたを讃美します。

私たちの主，救い主でおられるイエス様において。アーメン。

ビル・ヘネガー
カリフォルニア州 ウエストレイクビレッジ

2月7日（木）

奇 跡 と メ ッ セ ー ジ

聖書朗読 ヨハネ 4：43～54

しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。
ヨハネ 20：31

イエス様はサマリアで教えられたのち、ガリラヤに戻り、ナザレから数マイル離れたガリラヤのカナに來られました。王室の役人がイエス様のところに来て、息子が死にかかっているの、いやして下さるようにイエス様にお願ひしました。イエス様は『帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。』と言われました。のちに、その王室の役人は、イエス様がそのように言われたまさにその時刻に息子が直ったことを知りました。

イエス様は地上におられるとき、2つの方法で使命を果たされていました。それはことばによるものと、しるしと不思議（奇跡）によるものです。奇跡は、人々の耳をイエス様のみことばに向けさせ、イエス様が神様のもとから來られたお方であることをあらわしました。ニコデモは『神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるようなしるしは、だれも行なうことはできません。』（ヨハネ 3：2）と言いました。さらにヨハネは、イエス様は多くの奇跡を行なわれ、記録はしていませんが『これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。』（ヨハネ20：31）と書きました。

奇跡を行なうとともに、イエス様はみことばをもたらされました。イエス様はサマリア、ガリラヤ、エルサレムで教えられ、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書には、私たちに向けられた教えがたくさん書かれています。

イエス様が奇跡を行われたことで、私たちはみことばに耳を傾けます。そしてみことばはイエス様によって救いがどのようにもたらされるかを私たちに教えてくれます。奇跡とメッセージの2つによって、イエス様は働きかけてくださったのです。

讃美歌 121

祈り お父様。イエス様をお遣わしく下さいましたことを感謝します。イエス様。あなたがどなたであるかをあらわすために来てくださったこと、いつの日にか、あなたとともにあるために、あなたにどのように従うべきかを教えてくださいましたことを感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

スタンフォード・ノース
オクラホマ州 エドモンド

2月8日（金）

本 当 で す か ？

聖書朗読 ヨハネ 5：1～6

イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」
ヨハネ 5：6

調子が優れなく、何とかしてよくなりたいたと医者にかかった時のことを想像してみてください。もし、その時に医者がただ笑顔を浮かべながら「よくなりたいか？」なんて言ったらあなたは思うのでしょうか。おそらく「本当ですか？ もちろんお願いします。病気を治すために病院に來ているのです」と多くの人が言うでしょう。病気がよくならないのに医者に來る人なんていません。

イエス様がベテスダの池に訪れたとき、そこにいた人々は皆病気を治そうと必死でした。天使が池の水をかき回した時に最初に池に入れた者が癒されると考えられていたからです。ベテスダの池は最初に入れた人にとっては癒しの池となりますが、他の人にとってはただの池なのです。癒される可能性は限りなく0でした。

『よくなりたいか。』 イエス様は38年もの間、池のほとりに伏せていた男に聞きました。イエス様は男の心を逆なでしようと思ったのではありません。この言葉は男の心を池から救い主たる自身へと引き付けるために必要だったのです。池からイエス様へと救いの望みを向ける先を変えると、男にもこのことが分かりました。イエス様は池のほとりにいる全員を治すことはしませんでした、この男の病気を癒したのです。

『よくなりたいか。』 イエス様に目を向ければきっと全てが良い方向へと向かうでしょう。

讃美歌 讃美歌 21 441

祈り 神様。私たちはどうすればより良い人生が送れるかに悩んでいます。救いに至るイエス様をしっかりと見つめられるようにし、またそれを妨げるものが取り除かれますように。アーメン。

ロバート・P・ミューレン

テキサス州 ノース・リッチランド・ヒルズ

2月9日（土）

聖書を読む意味

聖書朗読 ヨハネ 5：31～40

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもつて来ようとはしません。 ヨハネ 5：39～40

私は十代のころから聖書を調べていました。自分の主張が正しいことを証明するため、議論で勝つため、間違ったことをしている人に示すため、そして最終的には説教準備のためにです。しかし、私は聖書を拠り所としていましたが、結局はこの個所に出てくるユダヤ人たちのように聖書を見るだけの行為に陥ってしまっていました。永遠の命を得るためにイエス様に立ち返ることをしなかったのです。ただ文字面を追っただけでは、人となり、自らのことを道であり、真理であり、いのちであるとおっしゃったイエス様の言葉を受け取っているとは言えないのです。

前に一度、私のバイクについているクリスチャンステッカーを見て「神様を知っているの？」と話しかけてくれた女性がいました。「私は牧師ですから聖書も読みますよ」と私は答えそうになりましたが、しかしそれは彼女の聞いていることではなかったのでしょう。それに気が付いた私は「ええ知ってますよ。喜ばしいことです」と優しく答えたのでした。

「キリストは主、みことばはそのしもべ」 マルチン・ルター

讃美歌 187

祈り 天にいますお父様。いのちであり真実であるイエス様のことをこれからも信じられますように。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン
ネバダ州 カーソンシティ

2月10日（日）

イエス様と共に歩む

聖書朗読 ヨハネ 6：60～71

私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。

ヨハネ 6：69

人生は旅にたとえられます。そしてその旅は信仰によってこそ形作られているのです。今日はそのことをペテロを通じて学んでいきましょう。モーセ、エリヤと語ったイエスの姿を見て、ペテロはイエスが救世主であると確信しました。今日の聖書個所には多くの弟子が離れ去り、イエスと共に歩むのを辞めた後でさえ、ペテロはイエスと共に歩むことを誓っています。しかし最高法院（サンヘドリン）にてイエスが裁かれている最中、ペテロは3回もイエスのことを否定したのです（ヨハネ 18：15～27）。またコルネリオの家に向かう前には3回、特別な夢を見えています（使徒 10：9～16）。

ペテロの信仰の旅路はまっすぐではありませんし、簡単でも、見通しが良くもありません。そしてこれは私たちの旅路についても言えることなのです。たくさんの危険な曲道もありますし、道には骨を軋ませるような穴が空いています。また道中、先が見通せるわけでもないのです。時には混乱と疑惑の濃い霧が何キロにもわたり視界を遮ることもあります。この道の先に待ち受ける全てのことを知り、準備することは私たちにはできないのです。しかし私たちの隣にはいつもイエス様がいてくださることを知れば、安心してこの道も歩んでいけます。イエス様が守ってくださいます。

讃美歌 294

祈り 天にいますお父様。イエス様をいつも覚えて生活できるようにしてください。真実と安らぎとをイエス様に日々覚えられますように。栄光がますます増しますように。いつか天の家に帰るまでイエス様と歩めますように。アーメン。

パウル・L・ワトソン
ノースカロライナ州 ダーラム